【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成20年1月17日(2008.1.17)

【公開番号】特開2007-12355(P2007-12355A)
【公開日】平成19年1月18日(2007.1.18)
【年通号数】公開・登録公報2007-002
【出願番号】特願2005-189649(P2005-189649)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｍ　10/46　　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　 1/02　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｍ　10/46
Ｈ０４Ｍ　 1/02　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成19年11月19日(2007.11.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
筐体を構成する第1ケース部材が、筐体を構成する第２ケース部材或いは回路モジュールのフレームに、当該第1ケース部材の外表面側からネジ止めされる構成の携帯型電子機器において、
所定の接続台装置に対して当該筐体を載置した状態でその接続台装置との電気的接続を行う接点端子を設け、当該筐体のネジ止め用の凹部を、当該筐体が前記接続台装置に載置した状態で当該接続台装置に設けられたロック爪に対応する位置に形成し、
前記接続台装置に対して当該筐体を載置した際は、前記接続台装置とは前記接点端子を介して電気的接続を行うと共に、その電気的接続状態において前記ネジ止め用の凹部と前記接続台装置のロック爪とが係合してロックされるようにした、
ことを特徴とする携帯型電子機器。
【請求項２】
前記ロック爪は、当該筐体を前記接続台装置に載置した際にバネの付勢により突出駆動し、前記ネジ止め用の凹部は、その突出したロック爪を係合するための深さを有すること、
を特徴とする請求項１記載の携帯型電子機器。
【請求項３】
当該携帯型電子機器は、表示部側筐体と操作部側筐体とがヒンジ部を介して回動可能に設けられ、前記ネジ止め用の凹部は、前記操作部側筐体の裏ケース側に設けられていること、
を特徴とする請求項１記載の携帯型電子機器。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】

本発明は、所定の接続台装置への載置により、当該接続台装置との電気的接続を行う携帯型電子機器に関する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
本発明の課題は、筐体に接続台装置のロック爪と契合する凹部を新たに設ける必要なく、筐体のネジ取り付け穴を利用してデザイン的制約を解消することである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
以上の課題を解決するために、本発明は、筐体を構成する第1ケース部材が、筐体を構成する第２ケース部材或いは回路モジュールのフレームに、当該第1ケース部材の外表面側からネジ止めされる構成の携帯型電子機器において、所定の接続台装置に対して当該筐体を載置した状態でその接続台装置との電気的接続を行う接点端子を設け、当該筐体のネジ止め用の凹部を当該筐体が前記接続台装置に載置した状態で当該接続台装置に設けられたロック爪に対応する位置に設け、前記接続台装置に対して当該筐体を載置した際は、前記接続台装置とは前記接点端子を介して電気的接続を行うと共に、その電気的接続状態において前記ネジ止め用の凹部と前記接続台装置のロック爪とが係合してロックされるようにした、ことを特徴とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明によれば、ケース部材の外表面側に形成するネジ取付用の凹部を、接続台装置のロック爪と対応する位置に形成することにより、その接続台装置のロック爪の係合部となるので、筐体にロック爪係合用の凹部を新たに設ける必要がない。従って、筐体のデザイン的制約を解消できる。